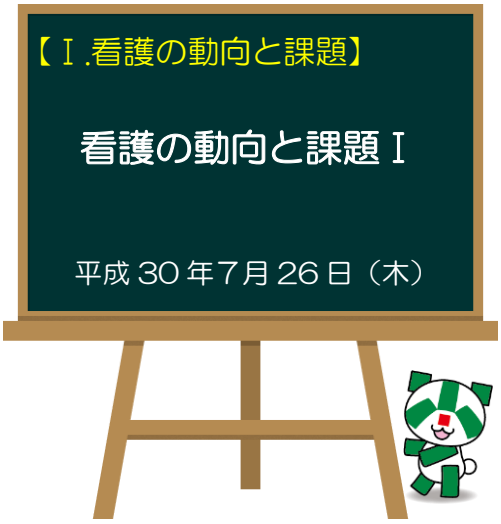


＊受講生の学び＊

- 他の病院の状況や参加者さんの考えや思いをきくことができ参考になった。
- 「診療の補助」の新たな理論を教えていただき納得できた。
- 自分自身の振り返りや看護師としての役割等を再学習することができたことがとても良かった。「診療の補助」を具体的に言語化されたものを教えてもらい、とても納得できました。自分の中ではわかっていても、他の方にどう伝えればよいか難しく、なかなか伝えきれていませんでした。
- 山形県としての取り組みや特定行為についてなど、名前は知っていても詳しくは知らないことを学ぶことができてよかったです。
- 自分はどんどん経験年数だけが重なっていって、どんな看護をしたいのかというのをあまり考えてみたことがなかったとうに思います。生活の為に仕事をしなければならないという感じできたように思います。自分はこうしたいとイキイキと言えるような女性になりたいと思いました。
- 地域包括ケアとして多職種と連携していても難しいと感じることもあります。他の病院でも同じような課題をもっているんだなと思いました。
- 看護理論は学生以来詳しく触れた感じで、今改めてヘンダーソンやマズローの理論を読み、自分の行っている看護の意味づけができたような気がする。
- 内容的に難しいところ、わかりそうでわからないなと思いながら聞いていたところもありましたが、最後のフリートークでそういうことに結びつくのかと他の皆さんの体験談なども聞きながら納得した部分もありました。
- 他の病院での悩み、先生からのアドバイス等が聞くことができ良かった。
- “看護とは”という日々業務に流されてしまい考えがうすくなっていたため、再学習できて良かった。
- 「看護とは」というところで、ヘンダーソンやケアについての資料を読み、難しいところもありましたが、再確認できたように思います。
- “看護とは”私の看護観など経験を積めば積むほどわからなくなることもあります。受講者の皆さんの私の看護観を是非聞いてみたいです。

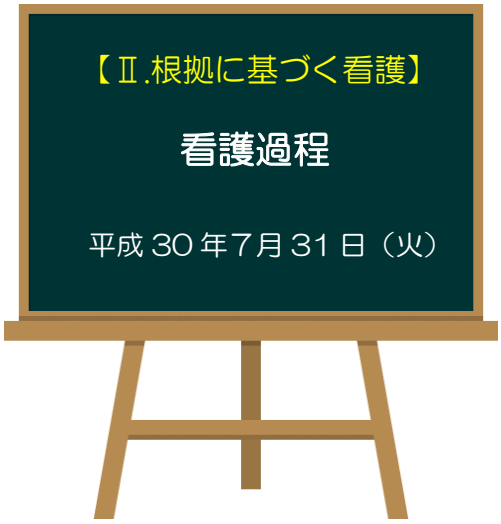
【Ⅰ.看護の動向と課題】

看護の動向と課題Ⅱ

平成 30 年7月 24 日（火）

＊受講生の学び＊

- 新人の特性を改めて学び直すことができた。日々の業務の中で、新人さんの関わり方を自分自身見直すことができた。
- 社会人基礎力や指導に活用できる方法を学んだことで、今後の指導に活かしていこうと思う。
- 学生さんの今学んでいるカリキュラム内容などを知ることで、今後自分たちもどのように接すると良いかが少しずつですがわかったと思います。「知っているものを、どう活用して考えさせるか。」質問の内容も大切だと考えさせられました。
- 現在の学生や新人教育に取り入れられているやり方など知ることができました。私が学生の頃とは変わってきていると感じました。
- 他の病院の学生・新人教育や補助者さんについて聞くことができて良かったです。
- このようなことを学習する機会がなく、難しい面はありましたが、講義を受けているという満足感が得られました。社会人基礎力というのが、今の新人さんにあるのだろうか、今いるスタッフにもあるのだろうかと考えさせられました。
- 教育方法や指導方法など、新人教育に限らず、スタッフ指導や看護補助者への研修などに活用できると思った。
- 現在の教育やカリキュラム等、現場ではなかなかふれることのない分野で興味を持つことができて良かった。
- 今の教育の現状や具体的にあったことなど聞けて、わかりやすかったです。



＊受講生の学び＊

- 看護過程、アセスメント等振り返り、初心に戻れました。講義の内容もわかりやすくて、看護診断についてもわかりやすかったです。
- 患者の全体像を捉えて、看護診断・計画・実施とつながっていくことを再認識できた。
- 看護過程を学生以来学習することができた。今まで経験で行ってきたことを、１から考え文章化する思考の過程の大切さを再認識できた。
- 関連図など、基本的なことを実際にすることができて良かったです。頭で考えてはいるだろうことを、文字にする機会があまりないので、今後のアセスメントにいかしていきたいです。
- 難しかったのですが、関連図は授業でしたことがなく、できて良かったです。でも、やれる自信はまだないです。
- ＮＡＮＤＡは、普段は使っていないのですが、いろいろな表現があって難しいと感じました。読んでみたいと思います。

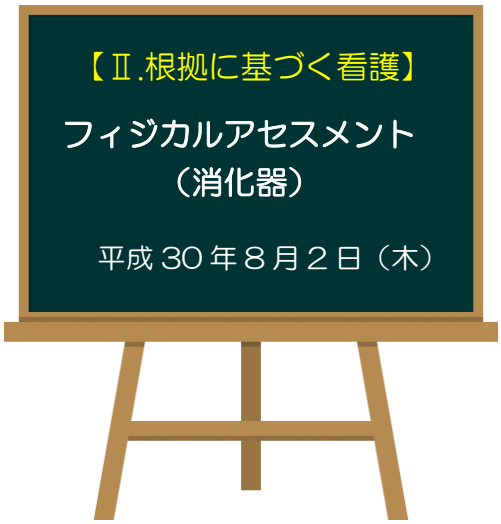
【Ⅱ.根拠に基づく看護】

フィジカルアセスメント

平成 30 年８月２日（木）

＊受講生の学び＊

- 看護の基本のバイタル測定の方法と意味を再確認できました。触診で左右の脈を測ること、呼吸数を測定することなど、安定している患者様に対して行っていないため、今後はしっかりバイタル測定をしていきたいと思った。
- 普段何気なく行っていたバイタルサイン測定や臨床でのアセスメント等、自分が行っていたことと、できていなかった所がはっきりわかってよかった。
- バイタルサイン測定の基本を学ぶことができて良かったです。いつも自然と行っていることを文字や言葉にするとこうなるのかと改めて学ぶことができました。
- 普段、意識せず実施している事を、基本に戻って学ぶことができた。正しい方法で正確な情報収集を行い、アセスメントし看護の展開につなげていきたい。
- 基本的５つの技法（問診・視診・聴診・打診・触診）・バイタルサイン測定方法まで、改めて基本学習し、再確認できた。また、打診は自己流で行っていた所もあったので、正しい方法が学べてよかった。
- 普段、何気なくバイタル測定を行って患者さんの状態を見ていたのですが、改めて今日の講義を聞いたことで、いろいろと納得できました。学生さんや新人さんに関わるときも、忘れずいかしていきたいと思います。打診の大切さもわかりました。
- 打診の方法のやり方を教えていただき、とてもわかりやすかった。
- 基本に戻ることが少なかったので、良い機会となりました。学生（新人）の目線で考えることができた。
- これまで行ってきたバイタルサインは、急変時の患者からのサインを見つけるのに本当に大切なことで、正確な値を測定するために注意するポイントも多くあること、その中でも自分が意識して行えていなかったところもあり、今後のバイタル測定を基本に返って行っていきたいと思った。
- 今の学生は、いろいろなアセスメントができて、いろいろな方面から患者をみることができるのでしょうね。なんだか、うらやましいです。



＊受講生の学び＊

- 腹部の聴診・触診の正しい方法を学ぶことができた。聴診した時に、腸蠕動音の有無だけでなく、音の違いにも気をつけていきたい。
- 腹部の観察は、臨床でよく行うことだったのですが、腸蠕動音の確認の仕方すらも今まで自己流であいまいだったと感じました。正しいフィジカルイグザミネーションができることで以上の早期発見ができ、自信を持って患者さんと関わる事ができそうです。
- 腹水のアセスメント、圧痛のアセスメントの理解ができた。臨床でどんどん実践し、音や触った感じの違いを身に付けていきたいです。
- 消化器のアセスメントの仕方を具体的に知ることができました。音の違いなど、病気ごとに知ることができて良かったです。
- 正常を知ることで、異常な点に気づけると思った。基本に戻り、有効なアセスメントができるように、今日の学びをいかしたいと思う。
- 講義で学んだことを最後に演習で実際に実施でき、よりわかりやすかった。
- スクラッチテストについて理解できた。
- 今まで患者観察の際、聴診・触診は行っていたが、今回改めてアセスメントの仕方を学び、これから活かせる学びができた。
- 座学だけでなく実際にフィジカルアセスメントを行い学ぶことができ良かった。
- 普段、エコーやＣＴなどに頼っていて、スクラッチテストや腹水のアセスメントなどしたことがなかったので、学びとなりました。
- 腹部の観察としては、普段、腸蠕動音や腹部膨満がないかなどの排便に対してしか行ってなく、今日の講義で、触診の方法・打診の方法、それによりわかる疾患等、学ぶことができたため、実際に現場でいかしていきたい。

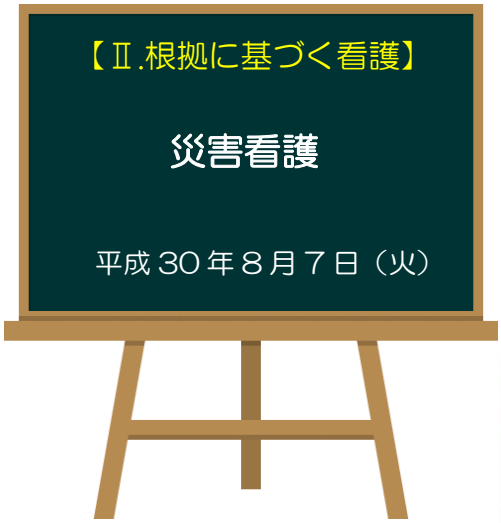
【Ⅱ.根拠に基づく看護】

フィジカルアセスメント
（呼吸器）

平成 30 年８月２日（木）

＊受講生の学び＊

- 普段、呼吸音の聴取は副雑音の有無ぐらいしか聴けていなかったが、しっかり聴診・打診することでわかる事、判断できることがあると感じた。音の違いがフィジコを聴診して良くわかった。
- 肺葉を意識して聴取できるようになり、打診の方法も学べてよかった。初めてフィジコで実習して、実際に音を聴取しながら学べて楽しかったし、操作方法まで教えていただきよかった。
- 実演でき、直接打診の指導をしていただけた。質問しやすい雰囲気であった。
- 呼吸音の違いをフィジコを使って聞くことができて、実際の音がわかってよかったです。聴診の仕方や打診の仕方など、復習することができて良かったです。
- 呼吸音・腸音を、実際にフィジコと人間とで異常時と正常を聞き分けられて、よい経験になりました。
- いつもカルテには「副雑音」と記入していたが、どのような音であるのか区別できるようなカルテ記入をし、患者の状態がスタッフで共有できるようにしていきたいと思った。
- 実際に打診を先生から教えていただき、肺の部分・肝臓の部分の音の違いを教わり、大変勉強になりました。でも、それでも音の違いがわからなくなり難しさも感じましたが、これから自分でいろんな患者さんの打診をしてみることにより、わかってくる面もあるのかなぁと思います。
- フィジコで実際に肺と腸の異常音を聴いてみて、なかなか教科書等で書いてあるカタカナ（ヒューヒューなど）ではイメージがつきにくかったけれど、今回の体験で、現場でも早期に異常を見つけられそうです。・
- フィジコを使っての授業が受けられる学生さんは幸せだなと思った。
- 打診は繰り返しきかないとわかりませんが、毎日少しずつ行って、患者さんの異常・変化につなげられればと思います。
- 講義だけでわかったつもりで終わってしまうが、実際にやってみると「あー」という気づきや感動がありました。フィジコもハイテクですごいと思いました。



＊受講生の学び＊

- いろいろな写真・動画を取り入れられて、とてもわかりやすかった。
- テレビで見るほどの、ちょっとした知識しかなかったので、トリアージ大変勉強になりました。災害がおこるかもしれないと思い、備えなければいけないと思いました。トリアージができるように、基本ですが冷静に患者さんを観察することが大事だと思いました。
- 災害看護研修を受けたことはあったが、実際にシミュレーションをしてみて、次に何をしたら良いのか、自分があわててしまうと実感しました。トリアージ（一時）法や、何を優先しなければならないのかわかりました。
- 今、災害が多いため、その時の看護師としての行動や気持ちの持ち方がわかった。言葉は聞いたことがあっても、トリアージを実際にしたことがなかったのでよかった。
- 日常生活で災害について考えることがあまりなかったので、良い機会になりました。自分の病院ではどうなっているのか確認したいと思いました。
- 災害看護の重要性・必要性がわかった。
- 実際に一時トリアージできて良かった。学生さんの演技がすばらしく、実体験のような演習となりました。実際にやると難しかったです。楽しい講義でした。
- 見極めるのが難しいと思いました。
- 講義を聞いていてはイメージ・理解できたが、実際の模擬患者にトリアージすると冷静になれず、実際の現場となるとどうなってしまうのか不安になった。
- 本当の災害時、混乱した現場で看護師として役割を果たせるか、すごく考えさせられました。
- 自分の病院に戻り、もう一度災害時マニュアルを確認して、訓練をしていかなければならないと思いました。
- 災害が多くなってきているので、今後ますます災害看護の必要性が出てくると思う。災害時に対応できるように訓練しなければならないと思った。

【Ⅱ.根拠に基づく看護】

リハビリテーションの看護

平成 30 年８月７日（火）

＊受講生の学び＊

- 患者さんのトランスファーなどやったことがあるが、介助者も無駄な動きがないよう、シンプルにできるよう実践できたような気がします。関節の伸ばし方も実践できて、患者さんにもやってみたいなぁと思いました。
- ベッド上のリハビリの方法と、移乗時の患者さんの足の位置や動かし方を、具体的に演習を入れながら教えていただき、早速現場で使えそうで良かった。
- 実際は細かい足の運びなどあるので、ICT より講義に参加したほうが良かった。エビデンスをもって介助すれば、楽に移乗や動作が行えると実感しました。患者さんを支えるとき、つい上から掴んでしまう時があった。下から支えるようにします。
- 拘縮の患者さんが多いです。リハビリも入っていますが、なかなか進行が止まりません。ミトンをしている方など多く、拘縮予防にはほど遠い感じがします。今日覚えたことは、少しずつ他のスタッフにも伝えていきたいと思います。
- 起き上がりや移乗動作を実際に患者さんの立場になって行うことで、恐怖心や戸惑いがわかった。声がけや介助・手の当て方等気をつけていきたいと思った。
- 講義内容は臨床の現場にそくしたもので、離床の大切さや関節可動域維持のための運動方法など、すぐに実践していきたいものばかりでした。当院の患者さんにとってプラスになるように、本日学んだことを少しずつ仕事に取り入れていきたいです。
- 要介護や寝たきりの方が多い当院では、移動介助に携わる機会が多く、自分の力任せで行うことが多かったので、患者さんの残存能力を活かした方法や自分の腰痛予防のための動きを学ぶことができました。
- 実際に演習ができ、実践することによって、わからない点など明確になり、わからない点があればその都度質問でき教えてもらうことができたので、いい学習になりました。臨床の場でも実践し、廃用症候群の予防にもつなげていけるようにしていきたいと思います。
- 普段聞くことができない大学の講義を、大学から離れた場所でも聞くことができとても良かった。実技があり、身をもって体験することができた。ＩＣＴならではで、質問しやすい環境だったのが良かった。
- 行ったり来たりの時間が短縮でき、大変ありがたいと感じ、時間配分としても集中して学べるとてもいい状態でした。起立性低血圧の方が多いので、予防法を早速現場で活かします。

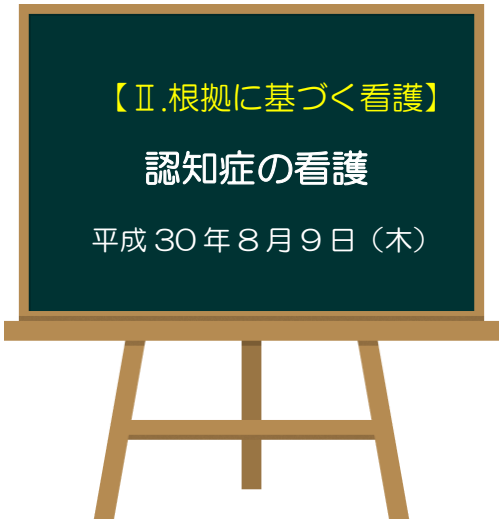
【Ⅱ.根拠に基づく看護】

高齢者の看護

平成 30 年 8 月 9 日（木）

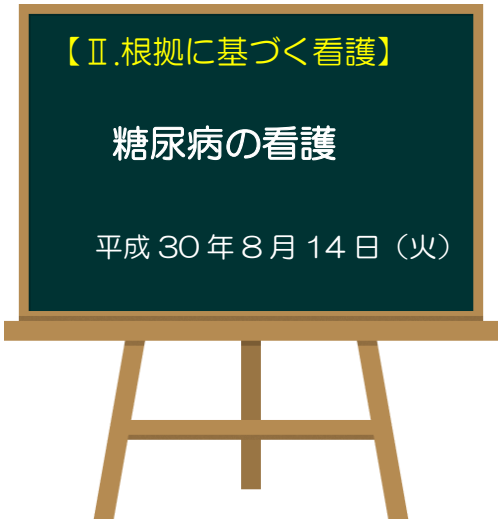
＊受講生の学び＊

- 今の職場に合った講義で、とても興味を持たせていただきました。高齢者＝弱者とならないように、今後の関わり方を考える良い機会になりました。
- 多側面からアセスメントすることが大切だと改めて学ぶことができた。高齢者福祉施設に勤務していることもあり、高齢者の看護は興味深い科目の一つでした。高齢者の身体面・精神面・社会面など、特徴を詳しく学ぶことができました。誰でも年をとり、老年期を迎えます。その中で、食事と運動が重要で、健康寿命とも密接に関係していることを感じました。今回学んだことを、日々のケアや自分の生活習慣にも活かしていきたいと思います。
- 高齢者の看護・終末期ケア難しい。本人の望むような終末期に導くための介入が必要であることはわかっている。しかし、家族の意見が有意に動いてしまっていることが多い。看護師が少しでも高齢者の意思を聞き取り、代弁できるような関わりができるようにしていきたいと思った。
- 現場では、患者の意見よりも家族の意見が反映されてしまうことが多い。今回の講義で高齢者の自己決定を支えるということを努めていきたいと思った。
- 私たちの看護で寝たきりを作っているのだと感じました。「とにかく不動にさせない」看護が大事であると痛感しました。
- 高齢化が進み、事例のようなことが多々あります。講義を聞いて、家族の意思が中心になってしまっていたことも気づき、高齢者の意思が尊重されていなかったなぁと振り返ります。終末期のケアの見直しを行い、更に良いケアにつなげられるようにしていきたい。
- 高齢者の身体的・生理的特徴から、アセスメントしていくにあたってのポイントや、入院中、安心して療養生活が送れるようにするための精神的ケアの重要性がわかりやすく説明してもらえてよかった。
- 疾患や症状に対することでも非典型的な症状や経過をたどること、症状が自覚しにくいため日々の観察での変化に早く気づくことの大切さを感じた。その他にも、廃用症候群の予防や合併症予防など、体力や免疫の低下により症状を悪化させないためのケアも重要だと感じました。また、家族の介護負担という、患者本人だけでなく、家族も含めた看護が、高齢者への看護という難しさだと思った。



＊受講生の学び＊

- 認知症についての研修は何回も参加していますが、知識の再確認と対応の仕方を改めて学ぶことができ良かった。拘束についても、スタッフとも共有し、良い対応を考えていけると思った。
- 認知症の方、たくさん接しているので、とても参考になることが多かったです。エプロンの柄やお皿の模様に目がいってしまうということもとても驚きましたが、思い返すと心当たりがあることもあり、納得できました
- 認知症について、安全に関連すること「看護の原点」と先生が言われたことが、とても印象強かったです。身体抑制についての取り組みをどう行えば良いのかとても悩んでいました。もう一度、チームで検討していきたいと思います。
- 認知症の患者さんに対して、看護側の指示が通らないことは多々ありますが、患者さん自身にも考えや思いがあり、それを尊重していくことがいかに大切なのかを学べてよかったです。また、何気なく行っている関わりが、患者さんにとって恐怖を感じている場合があると知り、（空間認知のイスの高さがわかりにくいということ）、これからの関わりにいかしていきたいです。
- 認知症の看護の「失行」「失認」「注意障害」についての理解ができていなかったと感じました。そのため、例題であったような対応をしていた自分に気づきました。認知症の患者さんの対応に日々疲弊していましたが、患者さんの同じように、私たちの対応に疲れ、不安に思っていたのだと感じました。患者さんに不快な思いをさせないように、全員で同じ対応ができるように検討していきたいと思います。
- 認知症の方もいろいろなことを考え、今までの人生を振り返っているのだなと思い、自分もそこに寄り添っていけたらいいなと思いました。
- 認知症の患者さんとのかかわりの中で、患者さんに寄り添った関わりをしていたつもりでしたが、今回の講義を聴いて、実は自分がよかれと思っていた関わりが、恐怖心や不安を与えていたのかもしれないということに気づきました。また、「今日来てくれた人、誰ですか？」と何気なくコミュニケーションをとっていましたが、これも患者さんを試すような声かけだと知り、ハッとしました。



＊受講生の学び＊

- 糖尿病に対する知識を再確認できた。患者の個別性に合った指導の重要性がわかった。今回の講義で学んだことを、指導に活かしていけたらと思う。普段の指導の中で、災害時のことに触れていないため、今後取り入れていきたいと思う。
- 糖尿病の基本的知識や症例を用いて説明があったので、わかりやすかった。患者の全体像を見て、多職種での支援をすることが大切だと再認識できた。
- 糖尿病の基本を再学習できてとても良かったです。
- 糖尿病患者の歯周ケア、全く頭になかったことだったので、観察ポイントとして重要であることを学習できました。口臭が強いＰｔの血糖値等確認してみようと思います。
- 高齢者糖尿病の血糖コントロール目標について知ることができた。
- スライドを見ながら、わかりやすい講義でとても勉強になりました。糖尿病の基礎知識から退院に向けての看護師の役割・フットケアの方法など、今後に活かしていきたいと思います。
- 糖尿病の基本的知識や高齢者の糖尿病患者について学ぶことができました。高齢者の糖尿病患者さんの方が接する機会が多いので、症状はないけれど低血糖だったということもあるなと思います。今日学んだことを患者さんとの関わりに活かしていきたいと思います。
- 入院されている方で糖尿病の方は多いので、とても身近な疾患で現場に戻ってすぐ活かされるなと感じました。
- 糖尿病の種類、患者さんに伝えるときに気をつけなければいけない点等、わかりやすかったです。
- 患者さんの生活状況なども含めて対応していけるように関っていきたいと思います。

【Ⅱ.根拠に基づく看護】

緩和ケアの看護

平成 30 年８月 14 日（火）

＊受講生の学び＊

・現在の職場は、終末期看護・緩和ケアが少し遠いので、興味深く聞かせていただきました。年に１・２回あるかないか、看取りの看護を振り返ると患者のことばかり考えて、家族ケアまで目がいっていなかったのが現状のような気がします。今後機会があれば、患者そして家族に寄り添える看護をしていきたいと感じました。

・緩和ケアについて、麻薬の使い方など今まで何となく、医師の指示のままに行っていたことも多かったが、まずは患者さんの痛みの評価をし、効果をきちんと医師に伝えたうえで、適切な緩和ケアを行うことが大切だと改めて学んだ。

・患者だけでなく家族のケアも重要となってくる。患者家族の思いを受け止め、その人らしさがなくならないように関わっていきたい。

・“その人らしい生活を維持すること”が看護の中心であることが、今回の講義でも実感した。

・麻薬の知識がほぼ無いに等しかったので、痛みを訴える患者さんのレスキューの使用の仕方、大変勉強になりました。終末期の看護でも、身近に使われている薬のことで、知らなかったことや、口腔ケアにごま油が良いなど、すぐ実践できそうなことがあり、大変ためになりました。

・オピオイド換算方法が具体的で、例題もありわかりやすかった。Ｄｒ指示であっても、適切かどうか考え、対応していかなくてはならないと改めて思った。

・疼痛緩和のためのレスキューの内服のタイミングなど、実際の現場で悩むこともあるので、痛いときに内服する（定期薬のすぐ前でも）ということがわかりました。基本的なことから今後活用できることまで、勉強できて良かったです。

・緩和ケア、終末期ケアは、医師はもちろんですが、看護師の判断や役割が大きいと感じました。私の病院にも、終末期の患者さんが多くいらっしゃいます。人は必ず死を迎えます。その時、この病院でよかったと思ってもらえるような看護の提供できるようにしたいと思いました。まずすぐ取り入れたいことは、エンゼルケアでマッサージと体幹を冷却です。また、かき氷の提供ができないか検討したいと思いました。

・慢性期の病院なので、亡くなっていく方は皆高齢で、若くして病気になり死を迎えるよりは、家族も含め受け入れやすいとは思います。しかし、今までなんとなく亡くなっていく方をみていたかなと思ってしまい、きちんとターミナルケアを学んでしていかなければならないと思いました。

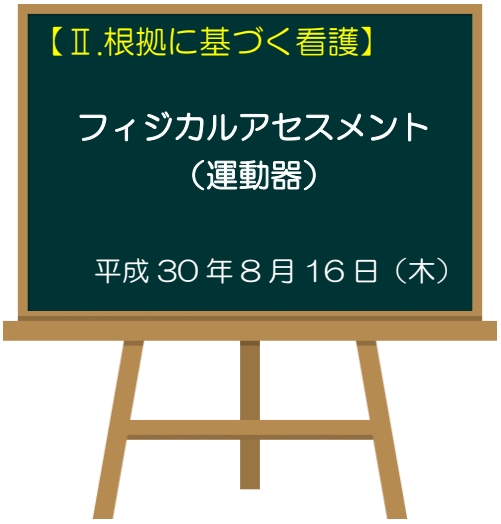
【Ⅱ.根拠に基づく看護】

フィジカルアセスメント
（循環器）

平成 30 年８月 14 日（火）

＊受講生の学び＊

- 循環器系は、今まで苦手でしたが、わかりやすくて納得できました。触診・視診・聴診それぞれいまいちわからなかった所がありましたが、先生の講義をうけて少し苦手意識が克服できたと思う。
- いかに、いつも適当にやっていたか再確認ができた。肺雑音には耳を傾けているが、心雑音をあんなに真剣に聞いたことはなかったので、良い経験になりました。クイズのようで楽しかったです。
- 苦手意識が強く、避けてしまいたい分野ですが、基本から学び、もう一度自分でも振り返りながら学習してみようと思いました。
- 心雑音がよく理解できたが、心音の聴取は難しいと感じた。今後、患者さんの心音も注目して聴診してみたい。学習できて良かった。
- 基本に返って改めて解剖から理解して授業を受けることができたので良かった。心音を聴取して異常な音を理解し、どんな疾患につながるかを理解できた。
- 心臓の機能や構造といった基本的な知識から心音まで学ぶことができました。心音の違いは聞き分けるのが難しかったです。患者さんの心音も聞いていきたいと思いました。
- 病棟では、循環器の患者さんが多く入院している。そのため、循環器の知識やアセスメント力が必要であるが、経験が浅く、困惑してしまうことが多い。しかし、講義に参加し演習も取り入れていただいたことで理解を深めることができたため、臨床で早速実施していきたい。
- 心音の聴診、５領域、正常はわかりました。フィジコで過剰心音を聞いたのですが、先生から教えていただき、何回か聞いてようやくわかる程度で、とても難しいと感じました。
- 循環器と聞くだけでなぜかドキドキしてしまう私です。わからないからドキドキしてしまい、全くうまくいかない。今回の講義を受け、どんどん患者の心音を聞かせていただき、少しでもドキドキが落ち着けるようにしようと思ったところです。
- 後輩たちにも自信をもってアドバイスできるようになりたいです。



＊受講生の学び＊

- 関節可動域については、リハビリ科でよく挙げているとは思っていましたが、こんなに細かく測定するとは思っていませんでした。患者さんのＡＤＬ可動域を知ることで、そのあとの関りをもう一度考えながら関わっていかなければと思いました。
- 運動機能の評価を、日常の看護の中で実践する機会はあっても、それを数字や用語に置き換えることは少なく、学ぶことが多かった。リハビリとの情報共有を密にして、残存機能の維持や必要な看護援助ができるように、今日の学びをいかしたい。
- 普段のケアの中で、ＲＯＭ測定や筋力評価などはしていないが、日常生活での援助・患者のＱＯＬ向上のためにも、きちんと評価し、より患者個人に合った介入ができるのだとわかった。
- 患者のＡＤＬを拡大していくといっても、様々な視点から評価していき、リハビリスタッフとの含めて行っていくことの大切さを改めて知ることができてよかった。
- 私が所属している病棟は、リハビリを行い、退院支援をしている患者さんが多くいる。運動器系のフィジカルアセスメントの講義に参加したことで、歩行の観察ポイントや筋力のスクリーニングに関して知識を得ることができ、実践に移すことができると思う。
- 整形外科病棟に勤務しているが、計測はリハビリスタッフ・医師が行い、情報共有となっていない。また、計測値を聞いても、看護にどのように活かしていくかまでは、アセスメントしていない。今回の研修で実際に計測を行い、その動きをもとにＡＤＬへのアセスメントの情報となることを学ばせてもらった。病院にかえって、リハビリの計測表を見て、リハビリとの情報共有を密にしていきたいと思った。
- 関節可動域測定をしましたが、結構大変なことで、拘縮などが加わっていたらもっと大変なんだろうなぁと感じました。しかし、アセスメントする上では、重要なことなのだと感じました。
- 普段、何気なく歩行の観察など行っていますが、どこまで動くのかなど考えながら観察してケアにいかしていきたいと思います。
- この疾患では、ここの関節可動域が制限される・・・とか、人工骨頭置換（ＴＨＡ）のときの脱臼肢位や、そういうところも体験できれば尚良いと思いました。

【Ⅱ.根拠に基づく看護】

フィジカルアセスメント（事例）

平成 30 年 8 月 16 日（木）

＊受講生の学び＊

- 今まで講義で学んだフィジカルアセスメントを、事例をもとに活用することは難しいと感じたが、普段自分が現場で何気なく行っていたケアは、このような根拠があって行っていたのだと理解できたし、今後は学んだことを活かして、患者さんを多面的にみれるようになれたらと思う。また、活かしていけるように患者さんをたくさん診て、触って聴いていけるようにしたい。
- 事例を用いたフィジカルアセスメントは、様々な視点から観察・アセスメントを行い、統一した看護援助を行うのに有効だと思った。職場に戻ったら、実施してみたい。
- 実際に事例で検討し、様々な人と考えることで、自分で気づかなかった視点からも問題やアセスメント、看護実践などを気づくことができて良かった。本日学んだアセスメントの視点だけでなく、他にも様々あると思うので、学習していきたい。
- １年目Ｎｓであり、同病院の先輩と事例を検討し、また、他病院のＮｓの方の発表を見ることができて、自分が気づかなかった問題やアセスメント、看護ケアを学ぶことができて良かった。
- 実際に病棟でも考えられる事例でありましたが、ここまで深くアセスメントをしていない事もあったので、考える機会となりよかったです。
- 事例を是非、病院に戻ったら勉強会に取り入れていきたいと思います。（新人さんに、フィジカルアセスメントと何度口で伝えても、伝わらない理由がわかった気がします。）
- 呼吸器や循環器・運動器など、それぞれの視点で観察をし、ケアに活かしていくことを実践で活かしていきたいと思いました。
- フィジカルアセスメントは看護職にとって非常に大切なものであるため、今回学びえたことを臨床でどんどん取り入れて、スキルアップにつなげていきたい。
- 具合が悪い時だけのフィジカルアセスメントではなく、看護援助につなげていくためのフィジカルアセスメントという視点が、今まで不足していたと感じました。今後は、そういう視点で患者さんを見られるようにしていきたいと思います。

【Ⅱ.根拠に基づく看護】

褥瘡ケアの看護

平成30年8月16日（木）

＊受講生の学び＊

- 今、配属している部署が褥瘡できやすい高齢の方や寝たきりの方が多いので、ポジショニングがとても勉強になりました。いつもあてておけばいいや…と思いがちですが、圧分散をきちんと考えていこうと思います。
- 姿勢一つで圧力が変わっていくことが視覚的に見ることができ、今までいかに間違っていたというか、圧迫に対する意識がなかったことがわかり、今後意識的にケアしていきたいと思った。褥瘡は看護ケアで治癒することができるものだと良くわかった。
- わかっているようでわかっていなかった褥瘡だったので、興味深く講義を受けれた。発生状態からスキンケアまで一連の流れで聞くことができ、とてもわかりやすかった。特に現場で悩むＤＥＳＩＧＮ－Ｒの判定の仕方を、実際の写真を入れて説明していただけてとてもわかりやすかった。
- 実際に褥瘡のある患者さんと関っていて、傷の処置で精一杯です。傷しか見ておらず、患者さんが在宅や病院でどのような生活をされているか、また、その人の傷以外の全身状態まで見て、褥瘡を関連づけて処置や評価をしなければならないと思いました。褥瘡への見方が少し変わったと思います。
- 体圧測定をしてみて、色で可視化できたのはわかりやすくてよかったです。円背の方があんなに赤く圧がかかるんですね。座位にした時の背抜きはしていたのですが、体位変換後、介護グローブで圧抜きするのは、初めて知りました。是非、実践に取り入れたいと思います。
- ＤＥＳＩＧＮ－Ｒの評価の仕方、褥瘡のサイズの測定の仕方、処置の方法、背抜きの重要性など、実際に病棟でも実践できそうな事を学べたので良かったです。
- 働き始めてＤＥＳＩＧＮの評価の仕方や、サイズの測定方法など、戸惑うことが多く、この講義で問題解決できた部分が多くありました。創傷被覆、保護材がほとんど無いところでのケアに不安もありますが、今後に活かせればと思います。
- 実際職場で普段してしまっているポジショニングが、仙骨等にすごい圧がかかっているということがわかりました。体重をあずけられるようなポジショニングが必要だということで、見た目にとらわれず、自分の手を入れてみて、圧をきちんと確認してみようと思います。
- ＤＥＳＩＧＮ－Ｒは、当院でも使用していますが、内容がとてもわかりやすく勉強できました。ドレッシングテープ、軟膏類についても勉強ができ、今後ケア時いかしていければと思います。

【Ⅱ.根拠に基づく看護】

摂食・嚥下の看護

平成 30 年 8 月 21 日（火）

＊受講生の学び＊

- 嚥下訓練といえば、嚥下体操くらいしか思い浮かばなかったのですが、現場で簡単にできるものもあり、是非やってみたいと思いました。高齢で嚥下が弱っている方はたくさんいるので、レクリエーションもかねて楽しくやっていきたいなぁと思いました。
- 嚥下体操や唾液マッサージ等は、以前から興味がありました。当院は言語聴覚士の人数も少ないため、私たちが関れることならば、行っていきたいと思います。あとは、解剖もとてもわかりやすかったです。実際、思い出しながら行っていきたいと思います。
- 実際にオブラートで内服したり、トロミ粉できな粉を飲み込んだり、患者様の気持ちを理解できたので良かったです。完全側臥位は、呼吸が楽であり、安全で安楽であること、嚥下のメカニズムなど、学ぶことができたので良かったです。
- 薬の服用方法の実習で、オブラートを口に貼りつけてきな粉を食べることが、予想以上に大変でした。患者さんが苦痛なく服用できる方法を実体験で学べたことはとても良かったです。
- 「老嚥」という言葉は初めて聞きました。当院にいる高齢者の多くは老嚥であるように感じました。完全側臥位は、10 年位前に摂食嚥下の研修で学んで、実践していました。しかし、はっきりしたエビデンスの記憶が薄れていたので、今回再度学べてよかったと思います。患者さんのそばで実際に介助している私たちが、ただの業務で介助するのではなく、患者さんの能力の評価をするチャンスと捉えて介助できるように、意識付けしていきたいと感じました。
- 開口しない方にストレッチをすると、開口しやすいと教えていただいたので試してみたいと思いました。食事介助や口腔ケアのポイントなど学べてよかったです。氷を使ったりしてみたいと思いました。
- 摂食・嚥下評価において、簡易評価方法の他に舌圧測定器を用いた評価方法もあることを知り、舌圧と食事の関係性について学ぶことができ、大変勉強になりました。
- 安全に食事をするためには、日々の嚥下状況の観察が重要であることを再確認でき良かったです。絶食である患者さんでも、食べることの可能性をあきらめず、食事を再開できた際には、今回の講義で得た知識や技術を実践し、安全に進めていこうと思います。

【Ⅱ.根拠に基づく看護】

急変時の看護

平成 30 年 8 月 23 日（木）

＊受講生の学び＊

- 観察や報告のポイントを学んだので、実践にいかしていきたいと思います。年に１回くらいＢＬＳの講習会をしていますが、それ以外でＡＥＤについて勉強する機会がないので、学習できて良かったです。
- 今までの知識の再確認ができた。医療従事者として早く患者さんの異常に気づけるようにするためのアセスメントの大切さや、正確な情報伝達をするためのポイントを学べてよかった。
- 急変時の対応においては、一人では限界があるので、チームで役割を決めたり、声を出し合うことが大切だと思いました。特に胸骨圧迫は、適切に行わないと意味がないため、圧迫の質を落とさないために、交代しながら行ったりと、より協力しながら患者さんの命を救うためには大切だと思いました。
- 急変時の観察・報告を的確・迅速にできるためには、情報を意図的に取り情報をまとめて伝えることで、その後の対応も早く取り組めることが理解できた。実際にＢＬＳを行い、後で評価することで、次のＢＬＳの手技の向上に繋がっていくため当院でも行っていきたい。
- 急変時焦ってしまい、どう動けばよいかわからなくなってしまう。今日の講義を聞いて、いかに普段からＢＬＳの訓練を繰り返し行っていくことも大切だが、患者をよく観察し、少しの変化も見逃さないことも大事なのだとわかった。系統立てた観察を心がけていこうと思う。
- 蘇生中、挿管・ＡＥＤ後、胸骨圧迫すぐ再開することが大事ということで、数秒単位で遅れると蘇生率が下がるというのがとても怖いことだなと思いました。それをあげる為にＡＥＤのアナウンスを把握しておくことや、通電後はすぐ再開してよいことなど、みんなに知ってもらいたいことが沢山ありました。
- 病院のＡＥＤを確認したいと思います。ＡＥＤアプリ等、様々なアプリ情報、活用してみたいと思う。
- ＡＥＤが設置されているのに、市民の方が使っている頻度が低いというのがとてももったいなく思い、地域として何かしていかなければいけないのではないかと感じました。やってはいると思うのですが、足りないのかなと思います。そんな中で、看護師としてプロとして、当然できなければいけないのだということも再認識しました。

【Ⅲ.地域密着連携】

地域医療連携（1）

平成 30 年 8 月 28 日（火）

＊受講生の学び＊

- 多職種連携の基本を学ぶことができた。患者、家族も一員となって、病や障害に共に向き合っていけるよう共感的な態度で多職種と関っていきたい。
- 多職種の現状や歴史を知ることができ、相手のことを少しでも知ることで、連携をとりやすい気持ちになることができた。
- チーム医療と言われると職業スタッフのことしか浮かばなかったが、患者・家族もチームの一員であることを言われてハッとしました。
- チーム医療の必要性は理解できていたが、実際に「チーム」となると現実的にはうまくいかないことの方が多い。しかし、利点も多く、やはりうまく周りを（特に医師）を巻き込んで、より良い医療につなげていかなければならないとわかった。
- 多職種連携は大切であるが、利点と並んで欠点もあるんだと改めて感じました。専門をいかした連携はあらため大切だと思いました。
- 多職種の講義は何度も聞きましたが、いつも実践的な講義が多かった。今回は、多職種とは何をする人という基本的なところが聞けて大変参考になりました。
- 職種の詳しい内容を知ることができて勉強になりました。
- 移動することなく、貴重な内容が聞けて体力的に楽である。
- 看護師以外の職種がどのような法律のもと業務を行っているのかや、多職種の最近の動向を教えていただけて勉強になりました。
- 多職種連携（チーム医療）は、その長所が多く取り上げられていて、院内や在宅でも褥瘡や感染など、チームで医療を行うのが当たり前になっていますが、今回はチーム医療の欠点について今まで考えたことがなかったので勉強になりました。
- 多職種連携の必要性と重要性を更に学べた。
- 多職種について、どのような過程で国家試験に行くのか、その職種のバックグラウンドがわかった。
- わかっていると思っていたが、多職種の職種別内容について、改めて理解・確認ができた。

【Ⅲ.地域密着連携】

地域医療連携（1）

平成 30 年 8 月 28 日（火）

＊受講生の学び＊

- 地域医療連携について、他の病院の方々のお話を聞くことができ、地域包括ケア病棟について詳しく聞くことができて良かったです。
- 「地域包括ケア」は良く聞く言葉ですが、実際に関ったことがなく、自分の中では言葉が一人歩きしている状況でした。今回の講義では、地域包括ケアの概要を詳細に説明していただきました。業務の中では患者さんや家族の意向にそって、患者家族の現状に合わせた支援をできるよう一つ一つの事例から学び、自分自身のスキルを上げていきたいです。
- 次々変わっていく制度の中で、自分の働いている地域の包括ケアシステムを理解することは簡単ではないが、知る努力をすることは必要だと改めて思いました。
- 国や地方の政策・制度についての知識が少なく、講義についていくので精一杯でした。しかし、全国でも山形県はネットワーク構築に関して先進的であることには驚きました。そして、地域や医療圏を越えて連携していることがわかりました。「自分自身の役割や課題」を問われて、短時間でまとめるのは難しかったですが、振り返りの機会となりました。県内のほかの病院の方との情報交換も貴重な機会となりました。今後の講義も楽しみにしています。
- 現実的な課題を考えながら学べた。色々な施設の声が聞けてよかった。
- 包括ケア病棟の立ち上げで、現在問題が多く出ています。病院のシステム問題もありますが、しかし、今後重要な役割を担うところと認識できよかった。
- 地域医療連携・地域包括システムを改めて学んだ。地域医療連携推進区域に関することについて、学ぶことができた。県内でも地域によって連携することに差があることがわかった。（庄内地域は進んでいる）
- 地域連携の現状や他病院のしくみなど聞けた。どの病院も地域連携や包括ケアなどに力を入れているのだとわかった。情報共有を行い、住み慣れた地域でよりよく暮らしていけるように工夫しているのだと改めて学んだ。
- 自分が患者の想いを大切にして看護をしていることが、地域密着へ繋がっていることもわかって、今後の看護のエネルギーになった。
- 他の地域の看護師とＩＣＴを介して情報交換でき、地域連携への取り組みや退院支援への取り組み等、参考になるような話も聞くことができて良かった。

【Ⅲ.地域密着連携】

連携のためのスキル

平成 30 年 8 月 30 日（木）

＊受講生の学び＊

- 傾聴とよくいいますが、うまくできているかわからなかったのですが、うなずいたり視線を合わせたりするだけでも全然違うと感じました。自分に余裕を持って、相手に接したいです。
- コーチングスキルを普段使っていないことを再確認できました。改めて、傾聴・質問・承認を使っていきたいと思いました。
- コーチングについて、以前にも講義を受けたことはありましたが、実際は全く活かせていなかった。今回改めてコーチングについて学び、実践を入れて楽しく学ぶことができました。質問・傾聴・承認、それぞれのスキルを学ぶことができ、今後実生活や仕事でも活かしていけると感じた。
- 職場、家庭ですぐ使用できるようなコーチングの講義でとてもよかった。
- 人の良い所を見つける、人をほめる、普段のことが全くできないことでも、すごく効果があることを強く感じました。
- とにかく学ぶことはたくさんありました。グループワークが多く、人見知りの私としては、緊張の連続だったのですが、少し打ち解けたような感じがします。
- 講義、全て楽しくて参考になりました。しかし、一番は、今の私の悩みに対する解決策を知れてスッキリしています。アンガーマネジメントを実践したいです。すごく楽しくて、あたたかくなりました。
- コーチングの奥の深さがとてもわかったように思います。「繰り返すことが大切」と先生が話されたように、何度も繰り返し自分に身につくようにしていきたいと思います。先生のお話が聞けて、本当に良かったです。
- コーチングスキルは、今後スタッフや患者家族と関るうえでも必要なことであるため、良い学びになった。自分に余裕を持って、仕事やプライベートでも過ごしていきたい。
- 自分を満たすことで、家族や職場に良い影響を与えられるようにしていきたいです。
- 家に帰ったら、まず子供の対応を再確認したいです。職場では、苦手な人とのコミュニケーションを今日の学びを活用し、少しずつ変えていってみます。
- 「何でできないの？」という言葉を、職場でも家でもたくさん言っていたので、「どうすればできる？」を一緒に考えていけたらよいなと思いました。

【Ⅲ.地域密着連携】

連携のためのスキル

平成 30 年９月４日（火）

＊受講生の学び＊

- アイデアを出すというのはとても難しいと感じましたが、まずは乱暴でも出してみるということで、安心してやってみることができました。途中からは笑いも出てきて、楽しく進めることができました。
- 答えのないグループワークは、あまり経験がないので楽しかった。初め、私と意見が違うかなと思っていても、話を掘り下げて聞いてみるとなるほど・・・と思った。「企画」も楽しかった。
- 普段の仕事で意識して使うことのない発想力だったり、創造性だったり楽しく学ぶことができて良かった。デザインと医療は全く違うものと思っていたが、その考え方が違っていたし、関係しているのだとわかった。ファシリテーターは実際に自分がするなら難しそうだが、話し合いの場に取り入れたら面白いものになりそうだ。
- ワークショップのやり方だったり、基本的なところから、実際のところまで楽しく学ぶことができました。具体的な事例もありわかりやすかったです。
- 沢山のアイデアを出し合い、そこから同じ分類をわけていき、まとめること、他のアイデアに賛同していくこと、そうすることでよりよい結果や方法に結びついていくと学んだ。
- 医療業界以外の方（先生）の講義は、目からウロコでした。その考え方をどう現場に活かすか、考え直すよい機会となりました。グループワークが多く、全員参加型のやり方でよかったですし、時間もあっという間でした。
- 病院の内で物事を考えていると同じようなことしか出てこないが、違った視点から考えるといつも少し違ったことが出てくるところがとても楽しかったです。
- アイデアを出すのはむずかしいと思いながらも楽しく参加できました。
- ワークが多く、楽しんで参加することができました。普段現場の中でも活かせそうなヒントがたくさんありました。
- 楽しく笑いながら参加できてとても良かったですが、以外に頭を使っていることに、終わったときに気がつきました。

【Ⅲ.地域密着連携】

地域医療連携（2）

～地域包括ケア～

平成 30 年９月６日（木）

＊受講生の学び＊

- 地域医療連携は、今後の医療には不可欠なものである。多職種で連携して、患者・家族がよりよく、その人らしく過ごせるように協働していく重要性を再確認できた。
- 連携するには、“自分のことを相手に伝え、相手の事を知る”というところが、今の自分にしていないことで、すごく心に響きました。
- 連携にはやはり、お互いを知ることが大切だと感じた。普段、他職種とのことを意識して働いていることがないような気がする。やはり、言葉で伝えることの大切さを学んだ。患者さんや家族のため・・・。
- 自分が働いている地域の特性を意識して働いたことはなかった。地域を知ることで、患者理解にも繋がるのではと感じた。
- 地域の特性を知るということで、実は地域のことをよくわからなかったなぁと感じました。他の地域のことも聞けてよかったです。
- フランスの連携・協働についての考え方を聞き、とても納得できた部分が多くありました。地域密着連携をこれからも考えながらいきたいと思います。
- 「地域の特性を知る」という宿題があり、自分の住んでいる市のことが全くわからずホームページで検索して調べました。実際に地域に住んでいるわけではないので、特にマインドの部分では調べてもわからず、病院にくる患者・家族という視点で思い返しながら考えてみました。しかし、私たちが対象としているのは、地域に住んでいる住民であり、まずその人（相手）を知ることが大切だと感じました。
- 多職種と連携するうえで、意識化・言語化することが大切と学びました。少数派の人たちを大切に対応していけたらと思います。
- 地域連携は医療の取組みにおいて不可欠なものですが、看護技術と違い、自分が参加や取組みをしている実感はありませでした。それは、地域連携についての勉強不足だったからです。地域連携は退院調整看護師やソーシャルワーカーが主にやっているものだと思っていました。自分が受け持ったり担当している患者さんに対して、多職種と情報伝達したり、患者。家族に医師からの指示や話の内容をわかりやすく説明したり、普段やっていることが地域連携につながっていると感じました。今後は、病棟の看護師として、入院患者さんの回復を助ける看護支援とともに、患者さん・家族の思いを汲み取り、可能な限り希望する生活が送れるよう、関連部署と関っていきたいです。

【Ⅲ.地域密着連携】

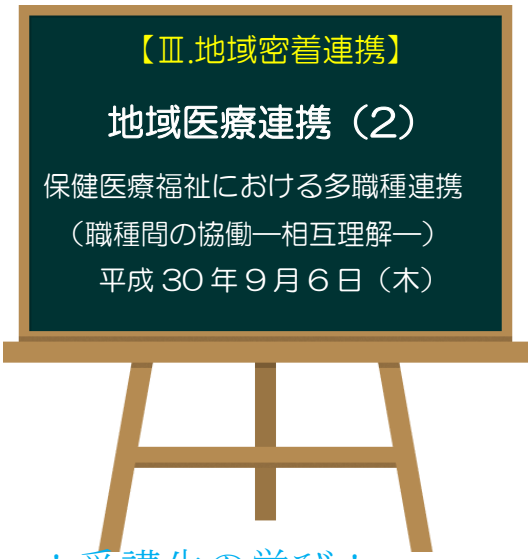
地域医療連携（2）

～地域での課題を考える～

平成 30 年９月６日（木）

＊受講生の学び＊

- ＩＣＴを使ってのグループワークは初めてでした。良い経験ができたと思います。違う場所にいても話し合いができる、顔が見えるというＩＣＴというツールは、今後活用されていくのだろうと思った。
- コミュニケーションスキルを使って、それぞれの意見をくみ取りまとめることができた。地域特性を踏まえて、包括ケアの課題を明確化していくことができた。
- ＩＣＴ使用してのグループワーク、なかなか経験のできないことでとても良かった。
- グループによって違う視点があり、おもしろかった。
- 改めて現状をまとめることで、現場でおきていることが良くわかった。（回復期リハビリ病棟の基準、在宅復帰率の難しさなど）
- 地域全体での支えが必要だと感じた。
- ＩＣＴでのグループワークができ、とても面白かった。意見が次々と出されよかったと思う。
- 結果としては、地域特性課題＝社会（日本）全体としての問題となってしまった。が、現状が地域特性として話し合えたのでよかった。
- 在宅復帰に取り組んでいる現状の課題・悩みを共有できて良かった。
- ＩＣＴを利用してのグループワークはしたことがなかったので、新鮮でした。場所が離れていても地域の現状は似ていると感じました。
- グループに分かれ、それぞれの病院の実際を聞き、共通する面も多くあり、患者層によっても違う面もあり、当たり前なのですが、知らない面も多くあると感じました。
- 地域包括ケアについて、課題としてあげてみると「何となく」という思いはありましたが、このように話し合って具体的に言葉にすると、わかりやすくて納得できてました。
- 「地域包括ケアの課題」　課題というところまで考えたことがなかったので難しかった。ただ今回は漠然とした課題抽出であったので、次回までもう少し整理して考えをまとめて参加したいと思います。大学とＩＣＴとつながってのグループワークは、想像していたより身近に話ができてよかったと思います。
- 地域の現状や課題はどこも同じようだと思いました。ホワイトボードにわかりやすくまとめてくれたので、やりやすいと感じました。



＊受講生の学び＊

○作業療法とは・・・

- 作業療法の内容をいかに理解していなかったのかがわかった。目に見える機能だけでなく、精神的なケアまで行っているとは知らなかった。顕在化ニーズだけでなく、潜在化しているニーズをいかに引き出すか、想像力を使ってケアできればもっとより良いケアに繋がると思った。
- 作業療法といっても、ただリハビリをするだけでなく、目に見えない課題を見つける想像力も大事にしていることを知った。看護の考えと同じ考えがあるのだと思った。
- 作業療法士さんのことをあまり知らなかったため、患者さんをどのような視点で見てリハビリを行っているか少し学ぶことができた。
- いつも使っている車椅子の名前も答えることができないことにちょっと反省です。想像力をフルに使い、潜在化ニーズを考えられるように頑張ります。
- 「体でなく心に集中させる」という表現が心に響きました。
- リハビリと言っても、その方の生活を見る、いろりのあった写真がとても印象的でした。その生活スタイルに合わせた動きをサポートすることが大切なのだなと思いました。同じに心の立ち直りも重要なのだと感じました。リハビリが進み少しできるようになったとき、逆にできないことがわかりやる気をなくすということを知り、そんな時は患者さんのことを理解しなければと思いました。
- 潜在化ニーズを顕在化していく、言語にして考えるとなるほどと感じることが多かった。車椅子も毎日見ていて使っているのに、知らないことが多かった。

○理学療法とは・・・

- 作業療法と理学療法の違いが今までいまいちわかりにくかったが、違うのではなく、根本的なことは患者がその人らしくよりよく暮らせるために・・・ということが同じベースにあるのだと思った。
- リハビリの中にも、包括ケアということがこれだけ重視されていることに少しびっくりしました。看護師だけが包括ケアと頑張っているような感じをうけたので・・・。当院では、このように感じてしまうところがあることから、病院内の多職種連携の見直しが必要であると感じました。

- 理学療法士とは一緒に仕事していますが、職種理解はしていなかったんだなと講義をきいてわかった。また、看護師同様、病院・施設だけでなく、在宅でも活躍の場があり、重要な立場にあるのだとわかった。「笑顔をあきらめない」というキャッチコピーは、私達看護師にも通じるものがあると思った。
- 「できること」と「していること」はちがうこと。日常生活において、しているようにもってく。
- 訪問リハビリの役割を動画で見ることができて勉強になった。「失われた機能を回復」を図るだけでないことを理解できた。
- 理学療法士の活動が、急性期・回復期・生活期・地域での活動に分けて、画像を通して理解することができた。
- 初めは映像トラブルありましたが、やはり映像はわかりやすく、興味がわいて来て良いです。
- 多職種連携を図っていく中で、気づきを言葉にして関っていくことが大切と思えた。
- 『笑顔をあきらめない』この言葉にひかれてまずメモをしました。障害があっても住み慣れたところで自分らしく暮らしたいという一人一人の思いを大切にしたい。⇒素敵な考え方であり、これは看護師も同じ思いだと感じました。
- 「できる」からといって毎日「している」わけではない。というのも日々感じていました。また「予防」の大切さも感じました。すごく聞きやすい講義だと思いました。
- 「リハビリ」と今までは作業療法士も理学療法士も一つのくくりにしていたように思います。それぞれの役割を知ることで、自分たちの今後の役割やチーム連携につなげられるように思いました。
- 当院のリハビリスタッフも学びが深く、いつも感心していますが、やはり今は看護師同様看護師以上に受け持ち性の充実がなっているので、どんどん地域連携に協力参画してもらえれば、力強いと感じています。
- 「できること」と「していること」の違いを理解することで、また違う視点で考えられるのではないかと思いました。

【Ⅲ.地域密着連携】

地域医療の実際

平成 30 年 9 月 11 日（火）

＊受講生の学び＊

- 自分の働いている地域の現状や課題を知ることができたことや、話し合い共有し、解決策を導くことの難しさもあったが、そのプロセスが大切なのかなと思った。
- 実際に行っている良いところを参考にしたいと思った。
- 他の地域の方との課題抽出で、とても難しいと感じましたが、話をしていくなかで、同様の不安、悩みがあることがわかり、とても勉強また自分への自信となりました。
- 今後の課題が明らかになって、また、アイデアがいろいろと聞けて良かった。
- いろいろな病院の現状・課題が見えて、更に悩みが同じであることに気づけた。今後の方向性が見えてきた。
- 様々な病院の問題・地域性においては、それほど大差はないことを知り、また、即できないかもしれないが、今後の課題について学べることができて良かった。
- 具体例の事例共有をじっくり行えた。
- みんなで話し合い、意見を出し合うことで日頃思っていることを整理できた。他の病院の現状を知ることができた。在宅で健康に暮らすことができるには、どうするのかについて考えるよい機会となった。
- 地域のサービスについて改めて考えることができた。他の地域のサービスの状況も知ることができた。
- グループワークをしてみて課題を考えていく中で、実は自分たち、今一緒に働いているスタッフとも地域包括ケアのことをよく知らない、意識した中で連携をできていないんじゃないかと思いました。まずは、そういう中で働いており、自分たちの病院の位置づけについて、勉強会を開き学ばなければいけないのではないかと感じました。
- 地域包括ケアについて、様々考えることができました。グループワークを行うことで、自分の病院の地域との関りをどのようにしていけばよいのか考えさせられました。

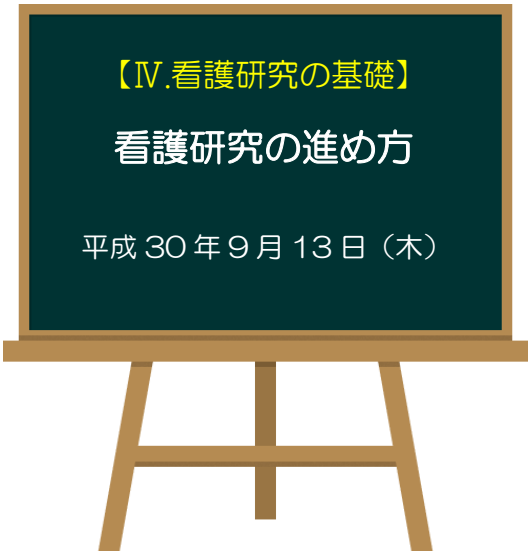
【Ⅲ.地域密着連携】

地域連携事例検討

平成 30 年 9 月 11 日（火）

＊受講生の学び＊

- 事例を振り返ることで、今後につながる知識を得ることができた。また、普段関りのない病院の方と関ることで、とても良い学びになりました。
- 普段、臨床の場ではなかなか出てこないことも、グループワークをすることで、様々な意見が出てすごいと思いました。
- 大学にいないＩＣＴの方ともすぐ近くにいるようにグループワークができ、楽しかったです。
- 事例を出し合い、どの病院も同じような悩みをもっているのだとわかった。
- 事例を話し合うことで、その時は気づかなかったことが見えてきて、振り返りにもなり、新たなアプローチ方法がみつかり、次の事例に活かしていけると改めてわかった。
- 一人で考えていると出てこない意見も、グループワークをすると、いろいろな視点からの意見が出てきて、とても勉強になりました。事例検討は病棟でも行っていきたいと思った。
- どんな意見でも発言し伝えることで、またそこから広がっていくことを実感することができました。自分の意見を相手に伝えること、大切だなぁと強く思いました。
- 普段ケアマネージャーが主になって立案するプラン立てに参加し楽しかった。情報がいかに大切か。金銭面、各々の人物像、多々含めて考えていくことも必要かと感じる。現場レベル確認できて良かった。
- 地域連携の中での看護師の役割がわかったようです。サービスも使いたい放題でなく、限られたお金・時間などの中からどういうことが必要か、衣食住を考えることが大切です。何をいっても、本人たちが在宅で（住み慣れたところで）安心・安全に過ごせる事であり、意思決定支援も大切だと思いました。
- 事例にいろんな意見・いろんな視点があることが本当にためになりました。振り返り・他病院の方からの話を活かしていきたいと思います。
- 忙しいと、してあげたくてもできないことがあることもあると感じました。本人・家族の意思がかみ合わないと難しいなと思いました。退院後にこのグループワークのように話し合う場があると振り返ることができるので、大切だと感じました。



＊受講生の学び＊

- 看護研究を進めるにあたり、基礎を学べた。個人的に疑問を質問し、アドバイスしていただき、今後進めるにあたり参考になった。
- 看護研究についての基礎知識や進め方を学ぶことができた。
- 文献検索を通してキーワードの入れ方や検索サイトでも変わってくるし、様々な論文や文献があることを改めて知った。
- 基本的な研究の進め方や文献検索の方法など学ぶことができて良かったです。
- 一人一人の理解を確認しながら進行していただきよかったです。
- 研究についてのテーマをあらかじめチームで相談して決めてはいたのですが、本当にそんなテーマでいいのだろうかという不安がありました。文献検索を実際にしてみると、似たような症例もみつかり、色々アドバイスもいただき、大変参考になりました。
- 看護研究ときくと、本当に苦手意識がありましたが、今日の講義を聞き、少しわかったような気がします。講義日数もあとわずか、頑張りたいと思います。
- 文献検索で迷い止っていたところなので、すごく助かりました。すごくやさしくて丁寧に教えていただきありがとうございました。
- 研究と聞くと逃げてしまうことが多々ありますが、かみくだいてどのようなものなのか講義があり、少し理解できたような気がします。
- 業務を行う中で、疑問に思うことは常々あるが、振り返ることがなかなかなく、今回テーマとして疑問に思っていることをあげることで、看護の質の向上につなげられればと思う。研究の第一歩を踏み出せた気がする。
- 研究に対する知識が深まり、今後アドバイスを行っていくうえで、役に立つものだと思われた。
- 講義されているときはわかるのですが、実際自分が研究できるのかと考えると、自信がなく不安しかないです。でも、研究というものを学べてよかったです。
- ゆっくりと検索でき、必要な情報の一歩を踏み出せた。

【Ⅳ.看護研究の基礎】

量的研究

平成 30 年９月 18 日（火）

＊受講生の学び＊

- 量的研究についての知識を得ることができた。尺度や客観的データを用いること、分析方法など、今後研究していくうえで参考になることを聞けた。
- アンケート一つとっても、表現の仕方・何を聞きたいのか明確にしないと意味のないものになってしまうのだとわかった。
- 今まで、できるだけ逃げていた研究の中身がほんの少しだけ学習できたような気がします。
- 尺度のことや質問用紙の作り方など、今まで曖昧なことを学ぶことができた。少し研究に興味がわいてきた。
- 講義の内で、「グループ内で話をすると、自分が気がつかなかった意見・視点をもらうことができる」とありました。日頃、なかなかグループワークをしていなかった私ですが、この研修に参加してグループワークの大切さ、違った視点のすごさを実感できています。
- 量的評価するためにどんなところを観察するか勉強になりました。部分ではわかるのですが、トータルすると難しくて、理解できているのかもわからなくなってきました。
- 分析するためには、数値化することが必要とのことで、迷っている部分もあったが、一人ではなく複数人で観察することでできることを知りよかった。
- アンケートに基づき研究を進めていくつもりだったので、その方法や集計について学ぶことができて良かったです。倫理的な面について、よくわかっていない点もあると思うので、次回学習して深めていきたいと思います。
- 量的研究のテーマが決まらないと展開できなかったが、無事にテーマを絞ることができ、具体的に進めて学習することができた。
- アンケートのとり方について詳しく知ることができた。研究を始める前に研究チームで話し、そこから気づきが広がりキーワードが沢山出てくるため、話し合うことが重要だとわかった。
- 量的研究の特徴や進め方など、実例もありわかりやすかったです。アンケート調査もいろいろ大事なポイントがあるなと感じました。
- 苦手意識が少しずつ理解に変わってきたので、引き続き学習したい。
- アンケートにたまに答えることがありますが、何ページにもわたってあると書く気がなくなるのは、みんな同じなので、要点を絞ることも大切だと思いました。

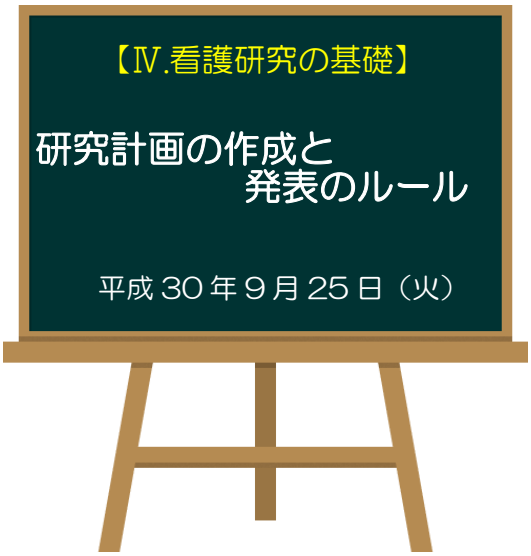
【Ⅳ.看護研究の基礎】

質的・記述的研究

平成 30 年 9 月 20 日（木）

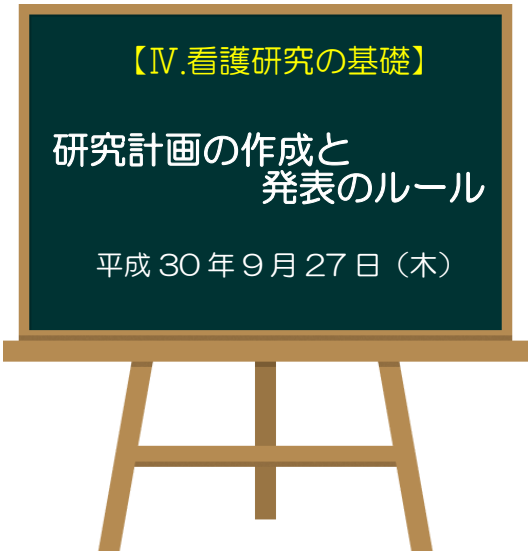
＊受講生の学び＊

- 今日読ませてもらった論文も、先生にポイントを聞いてから読むのと聞く前に読むのとでは、自分の中でも解釈が違ったように思います。
- 量的とは違い質的研究違うということはあきらかにわかりました。でも、とにかく難しそうという印象しかないです。
- わかりやすい言葉での講義でとても良かったです。実際に論文を読むことも、とてもいい時間になりました。
- 質的研究について、わかりやすい講義で、少しは理解・知識を深めることができた。
- データが言葉で表される・・・自分の語彙力なり本を読む・文献を読むということが大事だと感じた。
- 質的研究について、深めることができ、カテゴリー分けについて、詳しく知ることができた。
- 量的研究・質的研究両方講義を受け、研究の視点でテーマを探そうとしていたが、日常の臨床の中にあるのだと思った。
- 構成の違う二つの研究・事例を検討できてためになった。
- 質的研究は数ではなく、中身が重要であることを知った。
- 最初はとても難しいと思っていたが、事例を通して少しですがイメージできるものになった。
- 一つ一つの説明に例を挙げられていてわかりやすかった。データを分析するのには答えは無く、聞いた人にとって納得してもらえることが重要であり、きちんと目標を達成できているかという所を振り返ることが大事だと学び、理解できたか実際できるのかという不安がある。
- 質的研究のイロハを教えていただき、苦手意識が消えやりたくなりました。言葉をカテゴリーにしたりする技術は大変そうだが、面白いなとも思いました。
- 実際に質的研究を行っている最中なので、分析・考察する上でとても役にたちました。論文を読み解いてみるということは、初めてだったので難しかったですが、今後も教えていただいた視点に注意して読んでみようと思います。
- 知識としては、質的研究について理解できたが、実際進めるとなると、やはり難しさを感じる。分析方法が労力を要すと思われるが、臨床へのモチベーション向上のために取り組んでいかなければならないと感じた。



＊受講生の学び＊

- 看護研究における倫理的配慮の講義では、ある程度のイメージはつけられたが、実際に講義を聞いて研究するうえで様々な倫理的配慮が必要で、行ったことを文字として残す必要があることがわかった。
- 研究計画書、実際記入の難しさを感じながら研究に一歩踏み入れた気がする。
- 倫理的配慮について軽く考えていましたが、実は大変重要なことであるという事を知りました。（一つ一つ記述しないといけないのが大変そうですが・・・）
- 実際に計画書を書いてみると、講義の復習ができた。
- 久々の看護研究への取組みで、最近の倫理的配慮がとても丁寧で細やかな配慮が必要であることがわかりました。
- 講義の内容がわかりやすかった。（看護業務でも日々気を使っているところなので。）自宅では、出来ない作業を行う時間を設けて頂いて嬉しかった。
- 今まで研究をしたことがなくとても苦手意識が強かったが、今回、実際に取り組んで先生にアドバイスをもらい少しだけ意欲的になれました。
- 実際に計画書に具体的に記入しはじめると、改めて文字にしていく難しさを感じた。しかし、少人数の先生がついてくださって指導してくださり、具体的に理解していくことができた。
- 個別でアドバイスしていただき、参考になりました。
- 研究計画書の作成を少しわかったような気がした。倫理についてもとてもわかりやすかった。
- 倫理的配慮に関して、いろいろ気をつけることがあると感じました。
- 考えを文字・文章としてまとめることは、大変なことだと改めて感じた。
- 研究における具体的な倫理配慮が知れてよかった。資料もあり利用できる。
- 自分の知識のなさ、文章力のなさ、自分の出来なさにちょっとちょっとへこみます。そして、今の学生さんのすごさを実感です。
- 研究の方法はいろいろあって、計画を立てるのは難しいと思いました。方法にもいろいろな視点があって、細かく考えないといけないので悩みました。



＊受講生の学び＊

- 実際に計画書まで作成でき良かった。他者の発表を聞くことで勉強になった。いい学びの機会になった。また、自分の不足しているところもわかった。
- 今回の研究計画書作成にあたり、テーマから考え、計画書の作成が目標かと思っていたが、計画書を書くだけで様々な文献検索から方法までを必死になって作成しなければならず、これが本当に研究するとなるとかなりの労力を要するものだとわかった。しかし、研究のための研究ではなく、実践に繋げられると考えれば、軽い気持ちで始められそうだと思った。みなさんのテーマ・計画書をみて勉強になった。
- これまで研究のことについては何も知らず、論文なども全く読んだことがなかったので、急に研究チームに加わりどうしていいのか困っていました。研究について、５日間にわたりご指導いただき、だいぶ理解を深めることができました。
- 先生のお力を借りて、短期間で計画書を作成できたこと、方法が少し理解できたことがよかったです。
- 業務を行いながらでなく、集中して研究に携われた事は良かったと思います。先生方に適切な助言を頂くことができ、大変勉強になった。
- 実際、研究計画書を発表してみて、自分がやりたいことが伝わらなかったりしていることがわかった。他の方の発表を聞き、とても参考になりました。
- みなさんの計画書を見ることができ、新しい情報を知ることができました。
- 課題は多く残りましたが、今後のためにたくさんの情報を得ることができた。
- 他者と交流する機会は、貴重な時間となった。一つの計画書をまずは完成に至るまで行えて、目標達成できた。少しでも現場に返していきたい。
- 短期間集中すると、文章を読むこと・書くこと・すごく頭を使い疲れることを再認識できました。でも、ちょっと学生気分を味わえ、先生から的確なアドバイスをいただけることがうれしく感じました。
- 長いようで短く感じる研修でした。色々なことを覚えることができ、他病院の方とも関わることができとてもよかったです。
- 文字に表すことの難しさを知った。
- この単元を通して、少し研究をやってみようという気になれました。